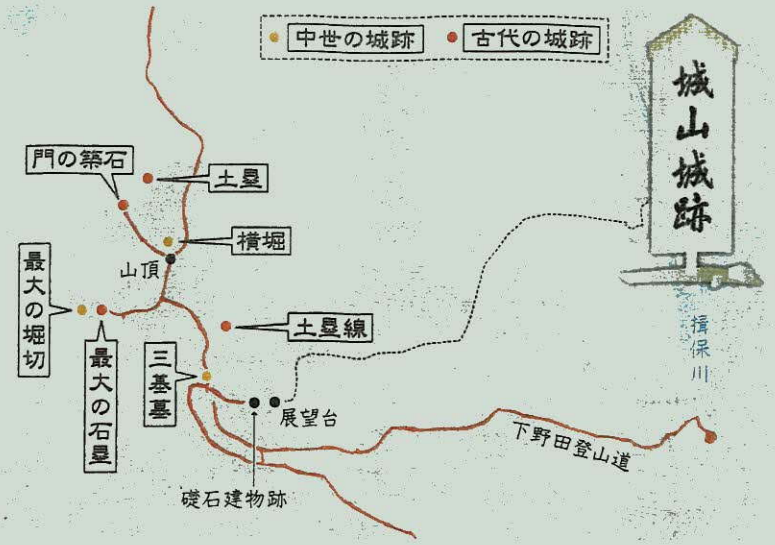
（第３種郵便物認可）　神戸新聞

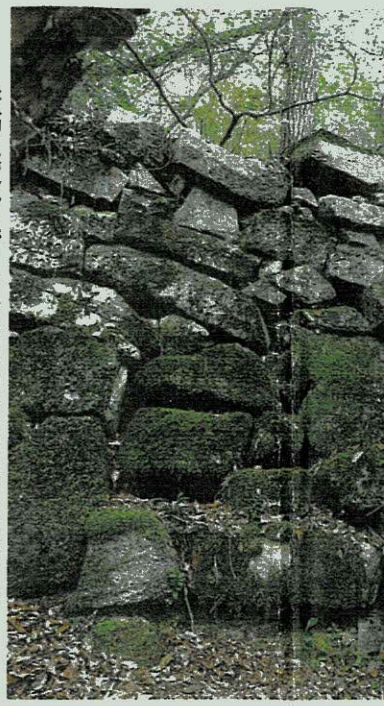
はりま山城新聞

次回12月1日は「はりま経済新聞」です



たつの市北部にある城山城は、
ある希少な遺構だ。前回は、赤松
介した。今回は古代城山城の遺構
化財課専門員、義則敏彦さん（60）
たつの市に存在した背景には、当
関係しているという。

山頂



谷筋に積み上げられた大規模な石塁。全長は41㍍ある＝いずれもたつの市内

後を今に伝える大きな石塁（石垣）が目の前に現れる。高さ3㍍、全長は41㍍もあり、城山城中最大だ。特に下部の石積みはひときわ大きい。「古代の石塁と考えられます。後の時代に修復された可能性はありますが」と義則さん。よくぞ1300年以上も残っていたものだ。

「次は城門跡へ案内します」。山頂から北西へ尾根筋を辿り返ると、現地調査で存在が浮かび上がってきた。

山頂周辺をぐるりと囲んでいたはずの土塁は、確認できない部分もあり、山城が未完成だった可能性も指摘されている。日本が唐と国交を結んだため、築造の途中で必要なくなったのかもしれない。どこまで築かれ、いつまで使われたのか。いろんな想像が膨らんでいく。

ドーム状石室の姥塚古墳 北東の山すそに

古代の城山城がなぜ、たつの市に存在するのか。義則さんは、麓にある越部地区の由来に関係があるとみている。

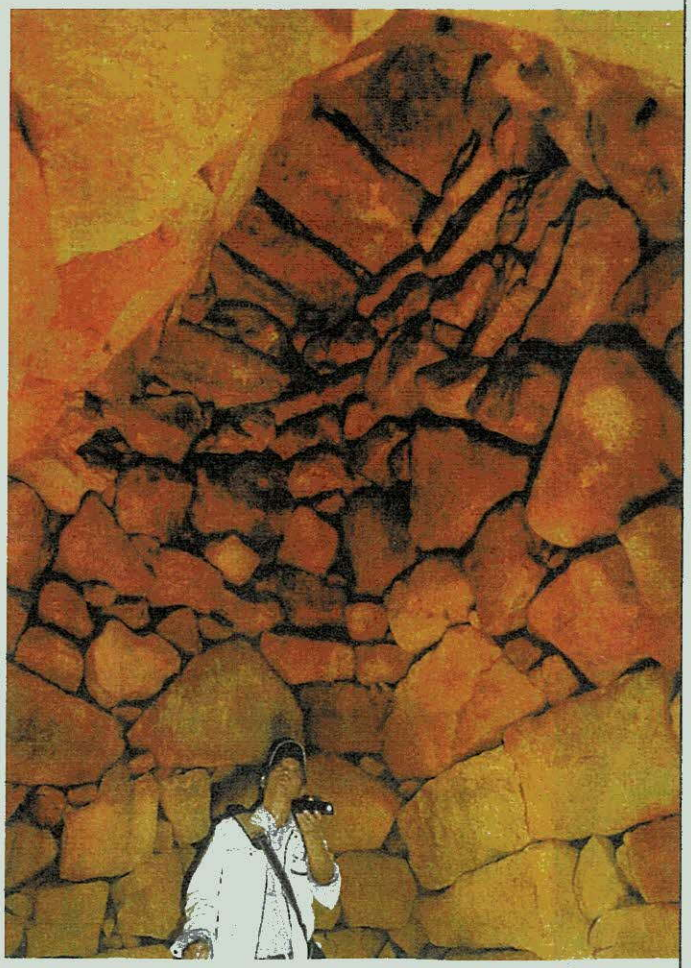
日本書紀などによると、城山城の周辺には６世紀に朝廷の直轄地が置かれ、越部屯宅と呼ばれていた。それゆえ防衛拠点が築かれた可能性があるという。

城山城北東の山すそには約40基の馬立古墳群がある。最大の遺構は兵庫県史跡の姥塚古墳（１号墳）。直径18㍍ある円墳だ。

義則さんの案内で石室の中に入った。天井が驚くほど高い。石をドーム状に３㍍以上積んでいる。かなりの有力者が葬られた可能性があるという。

姥塚古墳の南には、はっちょう塚７号墳もあり、こちらにも立派な石室がある。墳丘は風化が進んでいるが、上円下方墳ではないかという指摘もある。方墳の上に円墳を積んでおり、皇族クラスの墓に見られる形状という。

「県内唯一の古代山城が築かれたのは、越部がそれだけ重要な場所だった」と義則さんは指摘する。



▲ 姥塚古墳の石室の内部。天井が驚くほど高い

ある城山城は、古代の城跡と中世の城跡が同じ場所に。前回は、赤松則祐らによって築かれた中世の城跡を紹代城山城の遺構を、引き続きたつの市教育委員会歴史文則敏彦さん(60)の案内で巡る。兵庫県唯一の古代山城が た背景には、当時の緊迫した状況や周辺地域の特殊性が う。　(記事・田中伸明、写真・大山伸一郎)

とりでの記憶6

徹底紹介・城山城 下

山頂取り巻く古代の土塁

緊迫の国際情勢反映　全長41メートル石塁も

今から1360年近く前、日本は国防上の脅威にさらされた。朝鮮半島を舞台にした白村江の戦いで、日本と百済の連合軍は、唐と新羅の大軍に敗れて撤退した。次は日本に攻め込んでくる―。強い危機感から西日本を中心に各所に山城が築かれた。たつの市の古代城山城もその一つとされる。

「こちらへ来てください」。赤松満祐らの終焉の地と伝わる三基墓から北へ、木立の中を数分間歩く。「これが古代の土塁線跡です」。樹木に覆われているが、土の壁が続いているのが確認できる。「土塁は山頂の周辺を取り巻いていたと考えられます」

古代城山城の規模は、中世のそれより大きい。大手前大学史学研究所(西宮市)による近年の航空レーザー測量で判明した。石垣を比べても、赤松氏時代の山城よりはるかに大きい。「国家プロジェクトとして築かれたからでしょうか」と義則さん。当時の切迫した空気が伝わってくる。

山頂から南西へ回り込み、谷を少し下って振り返ると、大きな石塁(石垣)が目の前に現れる。高さ3メートル、全長は41メートルもあり、城山城中最大だ。特に下部の石積みはひときわ大きい。「古代の石塁と巻え

立派な門を支えた築石。扉の開閉を止める段差も見える

東側に眺望が開ける城山城跡

を数分間歩き、左手の斜面を少し下る。1辺が大人の背丈ほどある石が見えてきた。「門の築石」と呼ばれる。「コ」の字に開いた穴は1辺が60センチ。上部にも1辺30センチの穴がある。ここに柱を立て、立派な門を支えたとみられる。

同じような築石は、近くにも二つある。もともと城門は尾根筋付近にあったとみられ、歳月を経て、土砂崩れなどで石だけが谷へずり落ちたとみられる。

実はこれらの築石の発見者は、義則さん自身だ。1987年、旧新宮町の職員だった頃に父親と城跡へ登り、偶然見つけた。当時はまだシカ害が少なかったため、石はやぶに覆われていたという。

先述の大きな石塁も義則さんが発見した。古代の城山城は文献上は確認されていないが、現地調査で存在が浮かび上がってきた。

山頂周辺をぐるりと囲んでいたはずの土塁は、確認できない部分もあり、山城が未完成ゆえに可能性も指摘されて